

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット アルメリア)

事業所番号	2775801398		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	ひらのケアセンターそよ風		
所在地	大阪市平野区長吉長原4丁目17-6		
自己評価作成日	平成29年6月10日	評価結果市町村受理日	平成29年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活を可能な限り尊重し、出来る事の維持と、出来ないことに対してはそっと支えながら一日一日を大切に支援させていただいています。地域との関わりも、あたたかい関係性を継続しており、地域行事においても声を掛けていただくことが増え、楽しみの一つとして定着しています。なじみの関係作りの継続と、ご家族様も同行していただけるよう働きかけを行い一緒に思い出作りにも努め、誰もが立ち寄りやすいセンター作りを目指して日々取り組みを重ねています。また、医療機関との連携のもと、日々の健康管理と異常の早期発見にも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

センター長と管理者、職員は当サービス評価を、介護サービスの振り返りの機会と捉えてユニットごとの自己評価が行われており、サービス改善に向けた積極的な取り組み姿勢が今回調査でも確認された。内部見学の際は利用者自身が案内・説明役をしてくれた。各部屋の利用者の名前や今日は体調不良などの状態、浴室トイレの場所や利用状況、そして自分の居室では持ち込んできた馴染みの品物の説明をしてくれた。廊下に貼ってある職員写真の説明と人物評の時は職員と大笑いした。この利用者の状況が当事業所の介護サービスの質を表しているように感じられる。地域との交流も定着しつつあり、ふれあい喫茶、手作り市、長吉神社のお祭り、芽の輪くぐり等に利用者職員が参加して地域住民と交流して「地域とふれ合い、地域と共に」が実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、地域との関わりの機会も定着している。利用者様においても楽しみの一つとなっている。	法人の理念とは別にホーム独自の理念が「地域とふれ合い、共に発展」をユニットの入り口にわかり易く掲示されている。地域とのふれ合いや関りが職員の努力により定着して来ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の喫茶への参加は定着し、継続しながら実践を継続している。利用者様においても楽しみの一つとなっている。	ふれあい喫茶、手作り市、長吉神社祭りなど地域行事との交流が定着し、利用者にとっても「次も行こう」「また来たい」とホームでの生活の生きがい、暮らしのアクセントとなって来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターを始めとし、地域活動への参加も活発に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	事業所における現況報告や行事および事故等の報告を行い、取組み内容の透明化を図っている。地域からも行事等のお知らせ等を伺い情報の共有に努めている。	事業所の運営全般について地域からの出席者に対して、情報開示、報告(利用者数、行事実績・予定、事故報告など)を行い、地域からは地域行事の案内や地域福祉活動についての連絡及び意見交換が行われている。	第53回の運営推進会議では事業所から「看取りに関する取組み姿勢」の報告があったが、職員のより良いケアに向けて行っている研修内容も報告しては如何。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域主催の会議やネットワークにも参加し、地域に根ざした事業所として、他事業所との交流を含め協力関係を築いている。	市の窓口担当とは利用者に関する相談や報告を行う関係が出来ており、会議やネットワーク行事にも参加すると共に、ケースワーカーとは必要に応じて連絡を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、ここ数年該当者なし。玄関の施錠については安全面の確保を優先し行っているが、研修などを通して“当たり前ではない状態”であることを理解し、認識しながら取り組んでいる。	ユニットが2～3階にあるために、1階玄関は安全のために施錠しているが、職員は身体拘束の影響について内外の研修及び職員同士の伝達により、施錠が利用者にも与える影響を理解ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃より、不適切なケアを含めた虐待への意識を高め、お互いに注意しあえる環境作りに努めている。また、研修の機会も定期的に設け、気づきへの意識と確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用されている利用者様は増えている。担当者との連携は継続して行っており、利用者様に対する情報も共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の際は、必ず電話や文章等の連絡を行い同意をいただいている。都度に生じる疑問や質問に対しては柔軟に対応し理解を深めていただく努力を継続して行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時などの機会も含め、要望があった際は、家族ノートを活用しながらスタッフ間で共有し、柔軟に対応を行っている。些細なことであっても大切に情報を受け取る努力を行っている。	家族の訪問時に個別の要望を聞いたり、相談をかけている。家族ノートを活用して、職員間の情報共有を徹底させている。家族への職員の対応は愛想良く、笑顔で話しやすい雰囲気心を掛けている。ユニットごとの「そよ風だより」を毎月家族に届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談や必要に応じて意見を聞く機会を設けている。また、会社からの情報についてもアンケートやメッセージ等にて意見を反映できる仕組みが構築されてきており、事業の透明化は進んでいる。	職員は役割を持って事業所の運営に参加している。施設長、管理者を中心に併設のデイサービス事業所を含めた全体のチームワークが良好である。社内研修を必要に応じて受講できるよう配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフからの要望や意見は話し合いのもと、出来る限り反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は定着している。個々の資質に応じた研修やフォローアップの機会を設け、研鑽出来る環境を整えるよう、努力し実行している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域におけるネットワークは広がっており、連絡会を始め、地域に向けた認知症や医療関連に関する勉強会なども構成員として参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっては、本人様や家族様との話し合いの中から、思いや不安に感じていること等をお聞きし、安心していただける雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の思いや、要望はスタッフ間で共有し、思いに寄り添うよう心掛けている。また、繋がりを絶やさない関係作りと、一緒に支援していける体制作りの確保に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントやカンファレンスにより必要な支援の把握を行い、状況や状態変化が見られた場合は既存のプログラムにとらわれず、柔軟に対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の性格や、その時の気持ちに寄り添いながら、日々の生活を送ることを基本とし支援を行っている。また、日常における“ありがとう”の気持ちを互いに持ちながら、互恵の関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などへの呼びかけや繋がりを絶やさない関係作りと思い出の共有に努めている。また、季節の壁画や写真、音楽等、環境面においても家族様が面会しやすい環境を整えるよう努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自身が慣れ親しんだ場所を目的地とした外出援助や、必要に応じてプランにも位置づけ意識的な関わりを支援している。	利用者が納得して新しい暮らしに入れるように、家族と相談しながら、従来からの本人の生活パターンが途切れず、知り合いとの関係や馴染みの場所への訪問等が継続・維持できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置など関わりあえる空間への工夫を行っている。コミュニケーションを取りやすいような環境作りと、日常における個々の言葉を聞きながらスタッフ間で情報を共有し、関わりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したケースにおいても繋がりを大切に、必要に応じて連絡を取り合いながらいつでも相談できる環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やご様子から、希望や思い等を利用者様の立場に立って考えられるような関わりに努めている。	フェースシートには生活歴や既往症などを出来る限り記録している。利用者の好きな事、得意な事、今までしてきた事などを家族や本人から聞き取って、カンファレンスや申し送りで職員間での共有に努めて、ケアプランにもつなげるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様から得た情報を基に基本情報やアセスメントを作成し、ご自身の過ごしてこられた環境や現在に至るまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や性格、認知症の特徴を含めた把握に努め、その人らしい毎日を送っていただけるよう関わりを深めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とは日々の関わりの中で、ご家族様とは面会時や電話などで意向等を伺いながら支援の方向性を検討している。カンファレンスにおいて反映できるよう話し合いを重ねている。	毎月開催している職員ミーティングで利用者の変化の状況を話し合い、家族とも相談して意向を聞き、介護課題を更新している。介護計画書の目標の実施状況を毎日の介護記録に記入して計画に沿った支援を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記入と、日々における申し送りにて情報共有を行っている。介護援助計画書に応じた実践を基本としているが、変化に応じた柔軟な対応を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する状況においては柔軟な対応を行う場面も多く、日頃からスタッフ間での申し送りを行い随時柔軟な支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣へ出掛けることも定着し、地域との交流の機会は定期的に継続して行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には往診医にて対応していただいている。専門医への受診が必要となった場合は、本人・家族様の意向に添いながら適切な医療機関への受診につなげている。	家族や本人の希望を優先しているが、家族の意向により現実には往診医の対応となっている。月に2回の往診の時には医師へ状況を説明し、医師からは生活での注意点や対応について指示を受けるようにして、連携に努め、症状の早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康チェック、および医療連携体制強化による24時間のオンコール体制にて健康管理に努めている。必要な場合は主治医との連絡も行っていたきながら、異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中においてはカンファレンスへの参加や、家族様の意向等も伺いながら、本人にとって必要な支援の方向性について話し合いを行い早期退院に向けて働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの件数も増えており、最期の場所として選んでいただけることに誇りを持ち、看取りをさせていただいている。重度化は進んでおり、必要に応じて主治医との話し合いの機会も確保し安心して過ごしていただける環境を整えている。	入居時に家族に事業所の取り組み方針を説明するだけでなく、その後も家族の気持ちを確認するように努めている。看取りの件数も増え、経験のある職員を中心に、全職員が協力して家族の希望に沿った看取りが出来るように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修を行い、有事における対策を強化している。AEDも設置し、救命に対する意識の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練において避難経路の確保と応援体制の確認を行っている。地域の方からもアドバイスをいただき有事に備えている。	火災時の通報設備、消火設備が整備できている。避難経路の確保も出来ている。定期的な消防訓練は消防署の指導を受けて年2回は実施している。自治会との災害情報の連携も運営推進会議の議題にして、近隣からの災害支援をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なじみの関係となれなれしい関係との区別を心がけ、利用者一人一人の気持ちを大切にし関わりを行っている。	職員による「言葉かけ」はやさしい声かけになっている。職員同士が気がついたときに言葉の掛け方を注意し合っている。施設長及び管理者は職員ミーティング時に徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の言葉や表情などからも読み取りながら希望に添えるよう努めている。また、場面場面に応じて選択できる機会を設け自己決定につなげるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全面の優先や、状況によってはそうではない場面も生じてしまうが、基本的には自由にその人らしく過ごしていただけるよう寄り添いながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の際は、いつもと違った装いで参加していただくことを心かけている。訪問理容ではパーマや毛染め、お化粧品やネイルなども取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフとともにコミュニケーションを図りながら食事の片づけや、出来る事を分担して行っていただいている。出来る方が少なくなってきたりしている現状もあるが、可能な範囲でしていただいている。	可能な範囲で準備や片づけへの参加を促し、自分の使い慣れた茶碗や湯飲みを使ってもらおうようにしている。職員と一緒に食事し、自分のペースで団欒しながらの昼食風景となっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録による食事量・水分摂取量の確認を行い、状態の把握に努めている。また、一人一人の嚥下の状態に合わせた食事形態にて提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後における口腔ケアと定期的な歯科往診により口腔内の衛生を保つよう支援している。また、夕食後は義歯を預かり消毒を行い管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	インアウトチェック表を確認し、排泄パターンや習慣に応じた対応を心がけている。車椅子の方であっても立ち上がることが可能であれば、トイレに座って排泄していただくことを基本としている。	排泄チェック表にて個人個人の排泄パターンを把握した上で、タイミングを見計らった誘導など無理のない排泄環境を心掛け、自立した快適な排泄習慣が継続できるような排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便のパターンに応じて対応を工夫し、自然な排便を促しているが、便秘がちの方に対しては食べ物だけでなく、内服薬にてコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は定着しているが、状況によって臨機応変に対応を行っている。季節風呂なども取り入れリラックスできる空間作りを心がけている。	入浴日程をあらかじめ決めていたが、拒否があれば日程をずらして、気分良く入浴して貰えるように努めている。利用者個々の対応方法を職員で共有して、5月の菖蒲湯など季節を感じてもらふ事も準備して、ゆっくり入浴して貰う事を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその日の体調に合わせて休息を促している。自ら休まれる方については夜間の睡眠とのバランスを考慮しながら声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服変更時や、状態に変化が見られた場合はオンコール等を活用し、適宜主治医への報告を行っている。また、内服薬の変更時や指示に変更等があった場合は家族様へ報告を行い、情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみを持って生活していただけるようイベントの企画や気分転換を兼ねた外出等に出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿いながら外出や地域の行事に参加していただいているが、全員が平等までには至っていない。	普段の散歩だけでなく、買物なども含めて、できるだけ外の空気に触れるように心掛けている。イチゴ狩り遠足、地域行事への参加、桜や紅葉などの季節の外出行事を計画して気分転換と楽しみづくりを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にて管理を行っている。(紛失の可能性があるので)自ら買い物をしたいと希望される方については同行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をされる方はいらっしゃらないが、電話がかかってきた際にはおつなぎし、話をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画や壁飾り、カレンダーなどを掲示し、季節感を取り入れた空間作りを心がけている。食事の際のBGM、また、ホールには音楽を流し穏やかな空間を提供させていただいている。	施設っぽくならないようにユニット毎に工夫された空間(廊下、リビング)となっている。天井一杯の天の川と点滅する満天の星は男性職員によるアイデアが出され、季節感を感じてもらえる空間づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席への配慮や、利用者同士の交流が穏やかに測れるように必要に応じた仲介を交え支援を行っている。利用者同士の社会も築かれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いやすい家具や、なじみのものは出来る限りご持参いただき、本人にとっての落ち着いた空間、環境作りへの配慮を行っている。	居室は明るく清潔に保たれてる。本人が家で使っていた馴染みの家具や小学生時代のセピア色の写真が持ち込まれて、自分の居場所としての居室になっている。居室づくりはカンファレンスでも検討されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口に表札を設置し、トイレなどにおける目印など、見てわかるように配置している。フロアは全体的に見渡しやすい作りになっており、開放的である。		